

第8回 柳原地区まちづくり協議会概要

議 題	第8回 柳原地区まちづくり協議会		
日 時	令和8年(2026年)2月20日(金) 開催	場所等	千住あずま住区センター 3階会議室
出席者	足立区 (事務局)	足立区 建築防災課(以下、「防災課」という。) 5名 千住区民事務所 1名 コンサルタント(㈱首都圏総合計画研究所(以下、「首都研」という。)) 3名	
	参加者	協議会会員 10名	
資 料	次第 資料1 協議会役員の選任、令和8年度の協議会員の個人情報の取り扱いについて 資料2 まちづくりの進捗状況 資料3 柳原地区まちづくりニュース第5号について 資料4 部会活動について		
項番	議事・意見要約		
1	協議会下川会長 挨拶 前回の協議会では、部会の活動テーマ等、部会活動の大枠について議論した。 今回の協議会では、部会の立ち上げに向け、より具体的な議論を進めたい。本日もよろしくお願ひしたい。		
2	建築防災課臺課長 挨拶 皆様の協力の下、密集事業が進められており、今年度、道路拡幅整備について、1件契約をすることができた。その他にも複数の相談中の敷地があり、来年度以降、道路拡幅整備、プチテラスの整備を進めていきたい。 また、防災まちづくりにおいては、ソフト面の取組として、地域の機運醸成も重要と考えている。本日も部会活動について、意見交換を行うが、来年度も引き続き部会活動の取組を進めたいと考えている。よろしくお願ひしたい。		
3-1	不燃化特区制度の紹介 区より、不燃化特区制度の紹介があり、全体で質疑応答を行った。		
3-2	【質疑応答(不燃化特区制度の紹介について)】 委員：解体費助成の対象が個人又は中小企業者と説明されたが、町会は対象とならないのか。 防災課：町会は対象とならないが、例えば、建物所有者に同意を取り、町会長個人が建物を解体する場合は、解体費助成の活用が可能となる。 委員：建物が町会として登記されている場合はどうか。 防災課：建物所有者の同意として、申請時に町会として解体の意思を示す書類を添付いただく必要がある。		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の確認 ・協議会名簿の会員追加について報告。 		

5-1	<p>協議会役員の選任、令和8年度の協議会員の個人情報の取り扱いについて</p> <p>区より、協議会役員の選任、令和8年度の協議会員の個人情報の取り扱いについて説明があり、全体で質疑応答を行った。</p>
5-2	<p>【質疑応答（協議会役員の選任について）】</p> <p>委員：町会長交代後は、交代後の町会長に協議会役員を任せたい。</p> <p>防災課：町会の総会で実際に次期町会長を選任後、来年度第1回目の協議会で町会長の交代に伴う役員の交代について確認し、役員を交代するという流れが想定される。</p> <p>委員：そのような進め方で良い。</p> <p>防災課：その他、異論はないか。</p> <p>（会員からの異論なし）</p> <p>防災課：来年度も引き続き町会長の皆様に協議会役員を継続いただき。協議会会長より一言いただきたい。</p> <p>委員：来年度もよろしくお願ひしたい。</p>
5-3	<p>【質疑応答（令和8年度の協議会員の個人情報の取り扱いについて）】</p> <p>防災課：来年度も引き続きコンサルタントへ住所・氏名、電話番号、メールアドレス等の個人情報を提供する予定であるが、問題がないか。</p> <p>（会員からの異論なし）</p> <p>防災課：来年度第1回の協議会で改めて説明するが、来年度も引き続きコンサルタントへ個人情報を提供することとしたい。提供に都合の悪い方、個人情報に変更のある方がいれば、個別に連絡いただきたい。</p>
6-1	<p>まちづくりの進捗状況（防災街区整備地区計画の届出状況、密集事業の進捗状況、柳原千草園の基本設計の進捗状況）について</p> <p>コンサルタントより、まちづくりの進捗状況（防災街区整備地区計画の届出状況、密集事業の進捗状況、柳原千草園の基本設計の進捗状況）について説明があり、全体で質疑応答を行った。</p>
6-2	<p>【質疑応答の内容（防災街区整備地区計画の届出状況について）】</p> <p>（会員からの意見なし）</p>
6-3	<p>【質疑応答の内容（密集事業の進捗状況について）】</p> <p>委員：道路拡幅整備（契約済）となった箇所の残地はプチテラスとなるのか。</p> <p>防災課：当該用地は道路整備用地として取得したものであり、残地はプチテラスとして整備しない。なお、資料にプチテラス用地（相談中）とある箇所は別の箇所である。</p> <p>委員：事業協力者に対する移転先の紹介はしているのか。</p> <p>防災課：基本的には、建替え等をされる方自身で移転先を探してもらうこととなる。なお、道路拡幅整備に協力いただく方に対しては、別途、区から補償を支払うこととなる。</p> <p>委員：補償算定の基準はあるのか。</p> <p>防災課：東京都の基準に従い補償算定を行っている。年1回の価格更新を行っている。</p> <p>委員：未利用地がある場合、期間を決めて区で借り上げ、防災に貢献するスペースとして使用させてもらうことは可能か。</p> <p>防災課：そのような事例があれば、仕組み等について共有したい。</p>

	<p>委員：道路拡幅整備（契約済）となった箇所は、いつ道路として整備されるのか。</p> <p>防災課：今年度は予算が無いため、来年度に整備する。なお、給水設備が残されているため、当該部分を撤去後に整備する。</p> <p>委員：道路拡幅整備に合わせて電柱も後退させるのか。震災はいつ起きるか分からないため、できるだけ早く電柱を移設させてほしい。</p> <p>防災課：当該箇所の電柱移設について、事業者と調整中である。できるだけ早く電柱が移設されるように努めるが、道路拡幅整備が夏頃に終了した場合でも、電柱移設は来年度中が目安となるだろう。なお、今回は道路拡幅用地で後続の建築工事が無いため、すぐ道路拡幅工事に進むことができるが、後続の建築工事がある場合、敷地と道路の高さを合わせる等のため、建築工事完了後外構工事前に道路拡幅工事を行うこととなる。</p>
6-4	<p>【質疑応答の内容（柳原千草園の基本設計の進捗状況について）】</p> <p>防災課：改修工事に伴う防災設備の設置に関して、意見が特にない場合、維持管理のしやすさ等を踏まえ設置する防災設備を決定したい。なお、当該改修工事は主に防災生活道路5号の道路拡幅整備によるものである。</p> <p>委員：防災設備の設置に関する予算はどの程度であるか。</p> <p>防災課：未定である。</p> <p>委員：本日、防災設備案として紹介されたものは、予算を確保して整備するようにしてほしい。</p> <p>委員：整備時期はいつか。</p> <p>防災課：令和9年度の道路拡幅整備と併せ整備する。</p>
7-1	<p>柳原地区まちづくりニュース第5号について</p> <p>コンサルタントより、柳原地区まちづくりニュース第5号について説明があり、全体で質疑応答を行った。</p>
7-2	<p>【質疑応答の内容（柳原地区まちづくりニュース第5号について）】</p> <p>（会員からの意見なし）</p> <p>防災課：特に意見がなければ、本日の結果を踏まえて修正し、全戸配布したい。</p>
8-1	<p>部会活動について</p> <p>コンサルタントより、部会活動について説明があり、全体で意見交換を行った。</p>
8-2	<p>【意見交換の内容（最初の取組の検討について）】</p> <p>委員：前回の協議会の後、事務局に対して、お花見の取組を提案した。大踏切通り沿道は毎年綺麗な桜が咲くが、歩きながら写真を撮る程度の状況である。そこで、道路を車両通行止めとし、シートやテーブルを持ち寄り、各々楽しんでもらう機会を設けられないかと考えた。警察に届け出る必要があるが、お金や手間はそれほどかからないと思う。多世代の繋がりが緩やかに生まれ、実際に活動する練習にもなると考える。</p> <p>首都研：20年ほど前、商店会の方が中心となり、さくらまつりを開催していたと聞いている。実施に向けては、当時の経験をお持ちの方からアドバイスをいただくと良い。</p> <p>委員：防災生活道路6号も綺麗な桜が咲くため、お花見の候補地となり得る。</p> <p>委員：過去にさくらまつりを開催した際、桜の満開時期を予想できないことが問題となった。日程を柔軟に変更できると良いが、実際には難しいと思う。</p> <p>委員：2週間分の土日、計4日間で開催場所を確保できると良い。場所が確保できれば、あと</p>

	<p>は各々好きなタイミングで来ていただけたらと思う。</p> <p>委員：防災生活道路6号は大踏切通りと比較すると、車両通行止めを実施しやすいが、最近はやが伐採されている箇所もある。</p> <p>首都研：お花見も最初の取組案の中に含めて、検討を進めたい。</p>
8-3	<p>【意見交換の内容（部会メンバーの集め方について）】</p> <p>委員：多くの方に参加いただけるよう、町会や敬老会、サークルの連絡網、知人間の口コミ等、複数の異なる方法で周知を図る必要がある。</p> <p>首都研：具体的にはどのような手段が考えられるか。</p> <p>委員：町会の回覧板や簡易的なアンケート調査による募集が考えられる。</p> <p>委員：町会に入っていない方にどのように周知するかが重要である。</p> <p>委員：町会の掲示板へのチラシの掲出や千寿桜堤中学校への参加呼び掛けが考えられる。</p> <p>委員：チラシを一軒一軒ポストに投函し、参加を呼び掛ける方法が良い。</p> <p>首都研：まちづくりニュースは全戸投函しているため、活用の可能性がある。柳原稲荷神社のお祭りの際に、各町会から若い方が参加しているようだが、その方々に声を掛けることは難しいのか。</p> <p>委員：難しいと思う。</p> <p>首都研：千寿桜堤中学校への声掛けは、区から依頼できると良い。</p> <p>防災課：令和5年度に、千寿桜堤中学校の生徒と地元の方で意見交換をした。中学校の先生方も協力的であるため、話をすれば協力いただけると思う。</p> <p>首都研：東京電機大学のボランティアサークルに声掛けする方法もある。</p> <p>委員：まちづくりニュース第5号で部会について説明している箇所を読むと、協議会が取組を進めるイメージであり、自分事として捉えてもらえないと感じる。また、部会のメンバーを集めて一斉に取組を始めるのではなく、まず集まったメンバーで、できることから始められると良い。</p> <p>防災課：部会員になると負担が大きいと考え、積極的に参加しない方もいると思うが、実際には、部会の資料作成や会場確保、日程調整等は区で支援する。</p> <p>委員：メンバー募集のチラシを別途発行し、その中で募集内容や負担の大きさについて分かりやすく説明すると良い。</p> <p>委員：町会員は皆高齢であり、組織の存続が懸念される。当方は、夜回り当番や防災訓練といった町会活動並びに柳原稲荷神社での大晦日や節分等の祭事を通じて多くの方と知り合うことができた。このような地域活動は、地域の方で楽しみながら進めることが重要だと思う。</p> <p>防災課：そのとおりだと思う。町会員の高齢化も踏まえ、若い方を巻き込みながら地域活動を継続できるように組織づくりを進める必要がある。</p> <p>首都研：部会のテーマやそのテーマとなった背景、想定している取組の進め方等を記載したチラシを地元の方で作成してはどうか。そのチラシができ次第、町会で回覧等を行うと良い。</p> <p>委員：事務局でチラシのたたき台を作成していただけないか。</p> <p>首都研：作成は可能であるが、皆様で作成いただく方が、自分事として考えてもらえる内容となると考える。</p> <p>防災課：区でチラシのたたき台を作成しても良いが、実際の呼び込みは協議会員で行う方が伝わりやすいと思う。</p>

	<p>委員：どのような取組を進めるか協議会である程度決めたいうえで、部会のメンバーを募集した方が良い。</p> <p>首都研：これまでの意見交換を踏まえると、花見、まちの歴史や魅力の発信、柳原千草園でのイベント等が考えられる。その他、取組のアイデアを募集することも想定される。</p> <p>委員：「まちづくりに参加しませんか」というような呼び掛けの方が良い。また、人と人の繋がりをつくるのであれば、取組の内容というよりも、取組の場で実際に話をするのが重要となる。</p> <p>首都研：長期的には、取組の場で一緒に汗をかいた方が繋がりが、協議会に参加するという流れをつくるのが重要である。</p> <p>防災課：部会への参加のハードルを下げ、多くの方に参加してもらえると良い。また、参加者が地域に愛着を持つこと、災害時に助け合える関係性を構築することが重要と考えている。</p> <p>委員：桜並木や柳原稲荷神社のように、柳原地区の取組であることが分かる取組例を追加したうえで、チラシを作成するようにしてほしい。</p> <p>防災課：チラシのたたき台は事務局で作成後、各委員に郵送する。その後、いただいた意見を踏まえ、修正したものを完成版としたい。</p> <p>首都研：ここまでの議論をまとめると、活動テーマを伝えること、具体的な取組例を挙げ、部会活動のイメージを持ってもらうのが重要と考える。</p>
8-4	<p>【意見交換の内容（部会のテーマの検証方法について）】</p> <p>委員：人と人の繋がりができたことをどのように把握するのか。また、どの程度の繋がりをつくることを想定するのか。</p> <p>首都研：具体的には、町会の加入者数、協議会の参加者数等で把握することになると思う。顔見知りが増えたことを数値化するのは難しい。</p> <p>委員：我々は若い方との繋がりがそれほど多くないため、若い方との繋がりを広げていきたいが、それを数値化するのは難しいと思う。</p> <p>首都研：部会員となるメンバーとどのように繋がりを、何を伝えたいか予め考えておくことが重要である。これまでの意見交換を聞いていると、まちの歴史や文化等、柳原のことを知っていただき、一緒に柳原で生活していきたいという思いがあるのではないかと。</p> <p>委員：人と人の繋がりの状況を定期的に把握できると良い。例えば、アンケート等で定量的に把握できれば、部会活動の効果を実感でき、励みになると思う。</p> <p>防災課：町会や部会員の数、継続して実施するイベントであれば参加者数等で効果を定量的に把握することが可能である。また、アンケートで「繋がりが広がったと感じるか」と問うことも考えられる。部会活動を継続するためには、効果の実感も重要となるため、検討していきたい。</p> <p>首都研：イベントに参加した方に感想を聞くことで、効果を測ることも考えられる。イベントを実施するのであれば、その効果を検証する方法も合わせて検討していくとよい。</p> <p>防災課：他地区の部会では、イベント実施時にアンケートを実施している。他地区では、10～20年続いている部会もある。来年度設立する柳原地区の部会も長期的に継続できると良い。</p> <p>委員：当方が所属する町会では、若い方にイベントの手伝い等をお願いしているが、旧態依然とした体制に入りにくさを感じているようで、町会役員は務めていただけない。部会活動で若い方を多く巻き込むことができれば、町会の活性化にも繋がると期待している。</p>

事務連絡

9

- ・次回（来年度第1回）の協議会は、7～8月頃の開催を予定している。日程は改めて調整させていただく。来年度は事務局のメンバーの入れ替わりがあるかと思うが、引き続きよろしくお願ひしたい。

(参考 「部会活動について」時に使用したホワイトボードへの書き出し内容)

